



突撃!

リスクマネージャー!

医療の安全に取り組む全国のリスクマネージャー様にインタビュー

2018
1月号

No.101 医療法人社団愛友会 三郷中央総合病院 医療安全推進室 郡司由美子様



【三郷中央総合病院(埼玉県三郷市)】

■病院の概要(抜粋)

- 昭和 61 年 4 月 三郷病院として開設
 - 昭和 63 年 2 月 三郷順心病院に名称変更
 - 平成 11 年 6 月 三郷順心総合病院に名称変更
 - 平成 15 年 11 月 厚生労働省 管理型臨床研修病院指定
 - 平成 19 年 4 月 三郷中央総合病院に名称変更
 - 平成 21 年 4 月 DPC 対象病院認定
 - 平成 25 年 7 月 血管造影室増築
 - 平成 25 年 10 月 日本医療機能評価機構 (3rdG : Ver.1.0) 認定
 - 平成 26 年 3 月 64 例 128 スライス CT 導入
 - 平成 26 年 4 月 循環器センター設立
- 【病床数 289 床】

■病院理念

「愛し愛され信頼される病院」

■病院基本方針

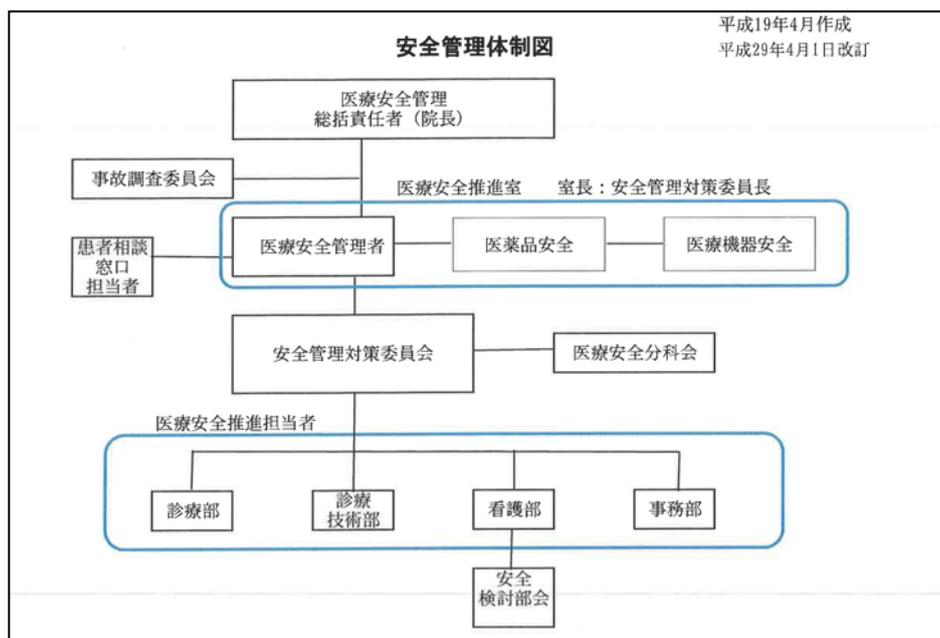
1. わたしたちは、すべての人の人格を尊重し、誠実に対応いたします。
2. わたしたちは、わかりやすい言葉で説明するように心がけます。
3. わたしたちは、患者さまの訴えや要望に応えられるよう心がけます。
4. わたしたちは、安全・安心に基づく医療を提供いたします。
5. わたしたちは、地域の医療機関・保健機関と緊密に連携いたします。

1. 組織体制について

医療安全に関する組織体制について貴院の特色を含めて教えて下さい。

医療安全推進室は副院長が室長を務め、医療安全管理者やその他のメンバーで実務に当たっています。

各部署にはチーフ職をおき、医療安全推進者となってスピーディな事案対応を行なえる体制を整えています。



主な業務内容を、院内各部署との連携を含めて教えてください。

私の主な業務内容は以下の通りです。

- | | |
|------------------------|--------------|
| ①インシデント・アクシデント報告の確認と承認 | ②患者・家族への説明同席 |
| ③再発防止の検討と対策 | ④アクシデント対応 |
| ⑤院内ラウンド | ⑥各委員会の企画・開催 |
| ⑦研修の企画・運営 | ⑧ニュースレター配信 |

2. 転倒・転落事例情報の収集と対策について

近年の事例発生件数の推移やその原因について教えてください。

転倒・転落事故は全体発生件数の約 25%を占めています。発生率に大きな変動はありませんが、骨折などのアクシデント数は減少しています。

発生場所の 70%はベッドサイドの事故で、認知症・高次脳機能障害が多く、リハビリの成果で ADL が向上し、自分自身で動けると思って転倒してしまうケースなどもあります。

今後ますます高齢化で認知症患者が増加すると思われるので、これからも更に患者の動きの早期発見やアクシデントにならないよう、効果的にセンサーを活用していくことが重要だと考えています。

特に注力されている貴院の特徴的な取り組みやシステムがあれば教えてください。

スタッフに対して医療安全の意識付けと、更なる向上を図るために、医療安全週間の時期に部署ごとに医療安全に関する取り組みを川柳やポスターにして発表を行っています。全スタッフに見える様に掲示し、それぞれが良いと思った発表に投票して、優秀な取り組みに関しては表彰することになっています。スタッフからも他部署の取り組みを知ることが出来て好評ですので継続して取り組んでいきたいと思っています。



3. 医療安全に関する研修および他院との連携について

医療安全に関連した研修の年間実施計画や内容について教えてください。

全体研修は年間2つのタイトルで開催しています。出席率を上げるために関心を引く内容を検討して複数回開催するようにしています。ちなみに今年度の内容は「チームSTEPPSのSBAR」※、シミュレーションでは「緊急時の対応」でした。

新人研修に関しては、医療安全の基本・薬剤・医療機器・MRI 関連の研修を行っており、看護部ではクリニカルラダー別にカリキュラムを作成し、研修を実施しています。

※ **Team STEPPS** (Team Strategies and Tools to Enhance Performance and Patient Safety : 医療のパフォーマンスと患者安全を高めるためにチームで取り組む戦略と方法)

良好なチームワークを確立し、医療行為全般のパフォーマンス（医療行為の経過から結果までの全過程の行い方）と患者さんの安全性を高めるために、米国において国防総省や航空業界などの事故対策実績を元に作成されたチーム戦略です。わが国ではあまりなじみがないが、明らかな有用性が確認され、現在では世界標準の患者安全推進ツールとなっているチームワーク改善手法を示している。

※ **SBAR**

「Team STEPPS」のコミュニケーショントレーニングのひとつ。S.B.A.R.とは以下の要素。

S: situation 状況把握 **B:** background 背景理解 **A:** assessment 評価 **R:** recommendation 提案

地域病院と医療安全に関する連携があれば内容を教えてください。

AMGグループ（上尾中央医科グループ）各施設の安全管理者が年に3回集合して、それぞれ情報の発信・交流・共有を行っています。グループ内では管理者のメーリングリストがありますので、何かあった場合にはすぐに連携が出来ることが非常に心強いです。

4. 離床センサーについて

離床センサーの選択基準やルールはありますか？

アセスメントで危険度が2以上の場合がセンサー使用の対象者で、ナースコールを押さずに患者自身で活動してしまう頃がセンサー使用の基準になっています。

離床センサー導入後の効果を教えてください。

センサーは事故防止だけではなく、事故の早期発見ができますので重症化を防ぐ効果もあります。アクシデント数が減少しているのはセンサー導入の成果として考えています。

以前は当院ではケーブルタイプのセンサーを主に使用していましたが、今はコードレスタイプのセンサーを使用しています。コードレスセンサーはベッド周りのケーブル類のスリム化に大きく貢献していますし、ベッドから少し離れた居室の出入り口にも設置ができるので、転倒・転落対策だけではなく、患者の離棟対策にも効果が出ています。

転倒・転落アセスメントスコア		患者評価	
分類	特徴	評価スコア	2012/07/04-17.26
	①入院当日(初期計画立案時)		
	②ベッド周囲の環境変化時(転機時)	1	● 3
A:年齢	③患者の病状変化時(手術後、安静度変更時)	3	
B:生活	④転倒転落事故発生時		
体験	⑤薬剤により転倒のリスクがある場合(抗ヒスタミン剤・睡眠導入剤・精神安定剤など)		
	⑥病状等変化がないときは、最低1か月で再評価	2	
C:健康	80歳以上		●
	70歳以上		
	60歳以上		
	6歳以下		
D:活動	日常生活で転倒し治療を受けた既往がある	3	
	虚脱・てんかん発作がある(意識消失・失神)		●
	平衡感覚障害がある		●
	視力・聴覚障害がある(日常的に支障がある)		●
E:認識	筋力の低下がある 麻痺・痺れ感がある	4	● 1
	骨・関節に異常がある(拘縮・変形・ギプスなど)		
	自立しているが、ふらつきがある		
	移動に介助が必要である		
	車いす・杖・歩行器を使用している		●
F:薬剤	寝たきりの状態であるが、手足は動かせる	4	● 1
	判断力・理解力・記憶力の低下がある		
	ナースコールを認識できない・使えない		
	認知症・見当識障害・意識障害・不穏行動・混乱などがある		
	睡眠導入剤・精神安定剤・抗ヒスタミン剤を服用している		
	排泄は見守り・介助が必要である		
	夜間トイレが頻回である		
	尿・便失禁がある・頻尿である		
G:排泄	ポータブルトイレを使用している	1	● 3
	貧血・発熱・腫水・浮腫・疼痛がある		●
	輸液・ドレージ・バルンカテーテルなどが接続(持続)中である		●
	リハビリ開始時期・訓練中である		●
	病状・ADLが急に回復・悪化している時期である		●
	ナースコールを押さずに勝手に行動しがちである		●
	尿道カテーテル留置中		
H:環境	トイレまで距離がある	1	
	リハビリ訓練中である		
	ペット生活が初めてである		
	手術目的の入院である(または、手術後である)		
	滑り止めのない履物を使用している	1	● 2
	合計		17
	危険度		III

5. メーカーへのご要望について

弊社の商品や顧客サービスについてご要望、ご意見がありましたらお聞かせ下さい。

スタッフが患者の介助中にセンサーを踏むことで何度もコールしてしまうことから、介助中はセンサーのスイッチを OFF にしてしまい、今度はスイッチの入れ忘れでセンサーが機能していなかったことがあり、何か良い方法がないかと考えています。

※テクノスジャパンのナースコール連動・コードレスタイプは「一時停止ボタン」があり、ボタンを押すと 5 分間センサーの動きを停止します。

その後自動的に復旧するので、介助後の電源の入れ忘れを防ぐことができます。

6. 何か一言お願いいたします。

病院様の PR や、郡司様のポリシーなどをお聞かせ下さい。

当院は急性期病院です。少し前に病棟編成を行いました。病院理念の「愛し愛され信頼される病院」にあるように、患者・家族だけではなく、病院職員にも愛される病院になるように取り組んでいきたいと思っています。